

看護学科

講義要綱

科目	薬理学	単位	1	開講時期	2年前期
授業形態	講義	時間	30	必修区分	必修
担当者	池田 雅彦				
授業目的	薬理学と薬物動態学の基礎知識を学ぶ。 薬理学では、様々な疾患に対して、どのような目的でどのような薬が使われるのか、その際、薬がどのようなメカニズムで作用するのか、また薬にどのような副作用があり、なぜその副作用がおこるのかを説明できるようにする。 薬物動態学では、服用した薬が体の中でどのような代謝を受け、何処に分布し、最終的にどのように排泄されるのかを説明できるようにする。				
到達目標	様々な疾患に対して、どのような種類の薬が使用されるのか、また薬の使用目的と作用メカニズム、副作用について説明できる。 国家試験の薬理学に関する過去の問題が解ける。				
授業概要	薬理学では、薬を使用したとき、薬がからだの中でどのような作用を示すのか、またある効果を期待するときどのような作用をもつ薬を使用すればよいのかについて学び、薬に対する基礎知識を養う。				
授業方法	講義				
授業展開	回数	内容			準備等
	1	薬理学総論			
	2				
	3	抗感染症薬・抗がん薬・免疫治療薬			
	4				
	5				
	6	抗アレルギー薬・抗炎症薬			
	7	末梢での神経活動に作用する薬物			
	8				
	9	中枢神経系に作用する薬物			
	10				
	11	心臓・血管系に作用する薬物			
	12				
	13	呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物			
	14				
15	物質代謝に作用する薬物				
履修条件	薬理学を学ぶには生化学、生理学などの知識が必要になるので、これらも合わせて学ぶ。 身近な薬に興味を持ち、たとえば病院で薬を処方されたらすぐ一般名、薬効、作用機序などを調べる姿勢が欲しい。				
評価方法	3回に分けて試験を行う。				
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学 医学書院				
参考書	NEW 薬理学 田中千賀子・加藤隆一 南江堂 カツリング薬理学 Bertran G. Katzung 丸善 臨床で役立つ薬の知識 折井孝夫 学研メディカル秀潤社 治療薬マニュアル2022 北原光夫他 医学書院				
備考					

看護学科

講義要綱

科目	臨床薬理学	単位数	1	開講時期	2年後期
授業形態	講義	時間	30	必修区分	必修
担当者	徳濱 潤一 他				
授業目的	疾患に関する知識を使って、薬の役割を学ぶ。				
到達目標	生活習慣病やがん・感染症などの疾患に焦点を当て、薬物療法を受ける患者の安全と病気の治癒あるいは症状の改善に医薬品はどのような効果を発揮しているのかを学ぶ。				
授業概要	処方箋や医薬品の情報源である添付文書の読み方も理解しましょう。可能な限り臨床で使用する医薬品の実物を見て、剤型や取り扱い方法を知り、個々の薬を患者にどう提供すればよいのかも学びます。				
授業方法					
授業展開	回数	内容			
	1	医薬品全般について・処方薬			
	2	医薬品の作用原理とその影響（添付文書の読み方・含有量換算・副作用・相互作用）、処方・調剤について			
	3	医薬品のリスクマネジメント			
	4	主な疾病に使用する薬剤 呼吸器			
	5	抗がん薬の臨床薬理			
	6	主な疾病に使用する薬剤 腎障害、透析療法、鎮痛薬			
	7	主な疾病に使用する薬剤 糖尿病治療薬			
	8	治験・CRC業務			
	9	感染症に対する治療薬・消毒			
	10	主な疾病に使用する薬剤 消化器			
	11	主な疾病に使用する薬剤 循環器			
	12	主な疾病に使用する薬剤 泌尿器・整形外科・神経内科			
	13	輸液について			
	14	オピオイド関連・外用薬（点眼薬・軟膏）			
15	終了試験				

履修条件	<p>私達の生活の中で医薬品は身近なものです。しかし、看護学生にとって「臨床薬理学」という講義名で示されるとその存在は未知のもので、難しい学問領域だと思ってしまうかもしれません。薬の名前も商品名ではなく、薬剤本来の名称（一般名）で学ぶ困難さは確かにあります。授業内容は非常に盛りだくさんです。でも、看護師になって臨床で出会う頻度の高い病気に焦点を当てて、看護師に求められる薬の知識を丁寧に学習してほしいです。この知識は必ず役立ちますし、病気と闘う人々を応援する力になります。遅刻せず、休まず出席してください。看護教師と協力して演習も取り入れます。授業に積極的に参加してください。</p>								
評価方法	定期の筆記試験で評価する								
テキスト	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 33%;">系統看護学講座</td> <td style="width: 33%;">別巻</td> <td style="width: 33%;">臨床薬理学</td> <td style="width: 33%;">医学書院</td> </tr> <tr> <td>系統看護学講座</td> <td>専門基礎分野</td> <td>薬理学</td> <td>医学書院</td> </tr> </table>	系統看護学講座	別巻	臨床薬理学	医学書院	系統看護学講座	専門基礎分野	薬理学	医学書院
系統看護学講座	別巻	臨床薬理学	医学書院						
系統看護学講座	専門基礎分野	薬理学	医学書院						
参考書									
備考									

看護学科

講義要綱

科目	臨床医学特論	単位数	1	開講時期	2年前期
授業形態	講義・演習	時間	30	必修区分	必修
担当者	医師 東幸宏 (4) 森脇五六 (4) 尾崎正時 (4)、理学療法士 澤野公一 (4)、作業療法士 勝又和也 (2)、言語聴覚士 佐々木 浩三 (2)、歯科衛生士 降旗晶子 (2)、臨床工学技士 大江 貴裕 (4)、学会認定臨床輸血看護師・自己血看護師 小田真里 (2)、移植支援協会 高橋和子 (2)				
授業目的	人間の健康障害に対する治療法の基礎を学び、治療方法に合わせた看護を考える土台となる知識、技術を理解する。				
到達目標	外科的治療、手術侵襲、麻酔、内視鏡的治療、リハビリテーション、歯科衛生、放射線療法、臨床工学、輸血療法、移植医療について理解する。				
授業概要	主要な治療法の基礎・概要について専門職から学ぶ講義である。成人看護の方法はもちろん他領域における看護の方法の講義で、本講義の治療法の知識を活かして理解につなげてほしい。また、実習においても受けもち患者の看護に役立てられるよう学んでほしい。				
授業方法	講義・演習				
授業展開	回数	内容	看護教育の技術項目	担当者	
	1	手術療法① 手術療法総論		東 幸宏	
	2	手術療法② 体液について		森脇 五六	
	3	手術療法③ 麻酔について			
	4	リハビリテーション医学① リハビリ総論		澤野 公一	
	5	リハビリテーション医学② 理学療法			
	6	リハビリテーション医学③ 作業療法		勝又 和也	
	7	リハビリテーション医学④ 言語療法		佐々木 浩三	
	8	歯科衛生	26:口腔ケア	降旗 晶子	
	9	内視鏡的治療法 (外科手術も含む)	56:検査の介助	東 幸宏	
	10	放射線療法①	66:放射線被ばく防止策の実施	尾崎 正時	
	11	放射線療法②			
	12	医療器具の原理と実際 ※実際に院内に行き医療機器に触れる	68:医療機器の操作・管理	大江 貴裕	
	13				
	14	輸血療法	46:輸血の管理	小田 真里	
15	移植医療		高橋 和子		
履修条件	主要な治療を短時間で学習するため内容が広く臨地実習が始まらないと理解が難しいかもしれないが、復習を重ね、最新の治療などにも関心を持てるようにしてほしい。				
評価方法	終了試験				
テキスト	系統看護学講座 別巻 臨床外科総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 消化器 医学書院 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院 系統化語学講座 別巻 臨床放射線医学 医学書院 系統看護学講座 専門分野 臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 歯・口腔 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学総論 医学書院				
参考書					
備考					

看護学科

講義要綱

科目	病態生理学Ⅲ	単位	1	開講時期	2年前期
授業形態	講義	時間数	30	必修区分	必修
担当者	医師：阪部 優夫 (4) 慢性心不全看護認定看護師：平岡 佐知子 (12) 医師：吉富 淳 (6) 伊波 奈穂 (4) 芦澤 洋喜 (4)				
授業目的	看護実践の基盤となる病態生理学について学ぶ。				
到達目標	<p>【循環機能】 人体の構造と機能での学びを基盤に、循環器疾患の代表的疾患の原因、検査、治療を理解する。障害によって起こる代表的な症状とその病態生理を理解する。</p> <p>【呼吸機能】 人体の構造と機能での学びを基盤に、呼吸機能障害を引き起こす疾病の原因、病態、検査、治療について理解する。</p>				
授業概要	<p>【循環機能】 授業の中では呼吸器系特有の検査は説明し、肺腫瘍のタイプ・症状・治療へと発展します。しかし、臨床では当然、全身の機能検査の結果も病気の診断に活用します。</p> <p>【呼吸機能】 授業の中では呼吸器系特有の検査は説明し、肺腫瘍のタイプ・症状・治療へと発展します。しかし、臨床では当然、全身の機能検査の結果も病気の診断に活用します。</p>				
授業方法	講義				
	回数	内容			担当者
	1	1. 検査 心電図・心エコー・心臓カテーテル法 2. 疾患の理解 虚血性心疾患、不整脈、弁膜症 動脈系疾患、静脈系疾患 3. 内科的治療 薬物療法、心臓カテーテル法 4. 外科的治療 心臓の手術、冠動脈の手術、弁置換術			阪部優夫
	2				
	3	1. 高血圧、心不全の病態生理 2. 症状とその病態生理 ① 胸痛 ② 動機 ③ 浮腫 ④ チアノーゼ ⑤ めまい・失神 ⑥ ショック			平岡 佐知子
	4				
	5				
	6				
	7				
	8				

授業展開	9	呼吸器の解剖生理 ①肺の機能と血液ガス分析 ②肺の画像 ③免疫機能と薬理学的知識 呼吸器感染症の病態の理解 (疾患の理解に必要な検査にも触れる)	吉富 淳
	10	①細菌性肺炎 ②肺結核 ③PCP (ニューモシスチス肺炎) ④インフルエンザ	
	11		
	12	主な疾患 (病態) の理解 ①腫瘍 (肺癌・中皮腫) ②気胸 ③禁煙について 上述の主な疾患を理解するための主な症状と検査 ①自覚症状・他覚症状 ②検査と治療・処置 胸部X線検査 胸部CT検査 胸部MRI 生検 (腫瘍マーカー検査) 喀痰検査 胸水検査 (胸腔ドレナージ) 内視鏡検査 肺機能検査 手術療法への適応	伊波 奈穂
	13		
14	主な疾患 (病態) の理解 ①COPD (慢性閉塞性肺疾患) ②気管支喘息 ③間質性肺炎 ④肺血栓症 上述の主な疾患を理解するための症状と検査 ①自覚症状・他覚症状 ②検査と治療・処置 血液検査 画像診断 呼吸機能検査 気管支鏡検査	芦澤 洋喜	
15			
履修条件	<p>すでに講義を受けた循環・呼吸の構造と機能が基盤になりますので、復習して講義にのぞんでください。講義で使用したノート・資料を持参することをお勧めします。検査及び治療を病態と結びつけてください。循環・呼吸器系の構造と機能は基礎知識として必要な知識です。その理由は、病態の理解は人間の身体の正常な機能が周知出来ていないと、困難になるからです。</p> <p>臨床における診療の実際から講義が行われます。胸部レントゲン検査やCT検査など画像に触れる時は興味を持って見て下さい。わからない事は積極的に質問しましょう。</p> <p>呼吸機能の検査は正常な肺活量の値を意識して、肺活量の低下に伴う呼吸苦についてイメージしてみましょう。</p>		
評価方法	【呼吸機能】終了試験 (50点)、【循環機能】と合わせて評価する。		
テキスト	系統看護学講座 専門分野 循環器 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 医学書院 系統看護学講座 専門分野 呼吸器 医学書院		
参考書			
備考			

看護学科

講義要綱

科目	病態生理学IV	単位数	1	開講時期	2年前期
授業形態	講義	時間数	30	必修区分	必修
担当者	医師 長田康介(4) 大蝶修司(4) 梶間諒(2) 高森康次(2) 立岡和弘(6) 望月菜緒美(4) がん化学療法看護認定看護師 市村菜穂(8)				
授業目的	看護実践の基盤となる病態生理学について学ぶ。				
到達目標	<p>【感覚機能】</p> <p><眼系> 眼科疾患の病態・診断・治療について学ぶ。</p> <p><耳鼻咽喉系> 耳鼻咽喉科領域の疾患、病態、検査などについて理解する。</p> <p><皮膚・アレルギー系></p> <p>生体に対する免疫システムの重要性と免疫反応の仕組みを理解する。</p> <p>アレルギー反応と疾患、自己免疫反応の意味と膠原病も含む自己免疫疾患を理解する</p> <p><歯・口腔系> 歯・口腔疾患は、口腔独特の構造、機能に由来する疾患という特性があり、全身疾患と口腔疾患との関係を理解する。</p> <p>【性・生殖機能】</p> <p>性・生殖機能の障害を引き起こす疾病の原因、検査、治療法について理解する。</p> <p>【身体防御機能：血液リンパ系】</p> <p>身体防御機能の障害を引き起こす疾病の概要と主な疾患を理解し、治療法について理解する。</p>				
授業概要	スライドと教科書で進める。				
授業方法	講義				
	回数	内容	準備等		
	1	眼科疾患の症状と病態生理について 白内障、緑内障、網膜剥離、網膜症などの理解	長田康介		
	2	必要な検査・治療・処置について 視力・眼底・視野・眼圧検査、各機能の薬物療法、各機能の手術療法			
	3	耳鼻咽喉科領域の疾患の症状と病態について 難聴（感音性・伝音性）、鼻出血、耳痛、鼻痛、めまい、 頸部がん（咽頭がん・喉頭がん）突発性難聴、メニエール病、 耳管狭窄、中耳炎、鼻アレルギー、副鼻腔炎、咽頭炎 検査・処置・治療について 薬物療法、手術療法	大蝶修司		
	4				
	5	免疫とアレルギー 免疫を担当する細胞と働き 抗原・抗体・補体・サイトカインの役割と相互作用 アレルギー反応の型式・アレルギー反応と疾患 自己免疫とは・自己免疫疾患と膠原病	梶間 諒		

授業展開	6	歯・口腔疾患の各種症状 歯・口腔疾患の診断 歯・口腔疾患の主な治療法 全身疾患と口腔疾患	高森康次
	7	性・生殖機能障害の病態 1. 女性のライフサイクルと疾患 2. 女性生殖器のしくみと働き 3. 女性生殖器疾患の主な症状 4. 女性生殖器疾患の診断 5. 主な女性生殖器疾患とその診療	立岡和弘
	8		
	9		
	10	造血器疾患の概要 造血器腫瘍の診断・治療 慢性骨髄性白血病、急性骨髄性白血病 悪性リンパ腫、多発性骨髄腫 化学療法、補助療法としての造血因子 造血幹細胞移植 同種骨髄移植、自家末梢血幹細胞移植	望月 菜緒美
11			
12	主な徴候とその病態生理 貧血、出血傾向と凝固、線溶系の異常、白血球減少症 造血器の障害 病因の理解 主な疾患の病態の理解 赤血球系の異常（鉄欠乏性貧血・再生不良性貧血・悪性貧血） 出血凝固系の異常（紫斑病、播種性血管内凝固症候群） 悪性リンパ腫、骨髄腫 病歴聴取と身体所見	市村菜穂	
13			
14			
15			
履修条件	<p>短い授業の中での説明のため、すでに学習した解剖生理学の知識を活用してのぞみ、講義後に教科書を何回も良く読みましょう。</p> <p><皮膚・アレルギー系></p> <p>免疫反応を理解するためには免疫担当細胞を把握することが不可欠であり、すでに授業を受けた解剖・生理学の血液(白血球群)の項目を復習して授業に望んでください。</p>		
評価方法	終了試験		
テキスト	系統看護学講座 専門分野 眼 系統看護学講座 専門分野 耳鼻咽喉 系統看護学講座 専門分野 アレルギー 膠原病 感染症 系統看護学講座 専門分野 歯・口腔 系統看護学講座 専門分野 女性生殖器 系統看護学講座 専門分野 血液・造血器	医学書院 医学書院 医学書院 医学書院 医学書院 医学書院	
参考書			
備考			

看護学科

講義要綱

科目	社会福祉論 I	単位	1 単位	開講時期	2年生後期
授業形態	講義	時間数	15時間	必修区分	必修
担当者	鈴木 茂				
授業目的	社会保障制度と社会福祉の変遷とその背景を理解し、健康生活を支援するために必要な社会福祉に関する知識を学ぶ。				
到達目標	人間の健康に関わり、生活を支援するため必要な、社会保障や社会福祉の制度に関する知識を学ぶ。				
授業概要	少子・急速な高齢社会、障害者の自立と社会参加に伴い、社会保障・社会福祉の内容は、かつてのような限られた者の保護にとどまらず、子育て・子育て支援、健康な高齢者の介護予防、生き甲斐対策、疾病の予防、健康づくりへと拡大、深化している。人間の健康に関わり、生活を支援するため必要な、社会保障や社会福祉の制度に関する知識を実践的な視点から学ぶ。				
授業方法					
授業展開	内容			準備等	
	1. 2	社会保障制度と社会福祉 社会保障制度 社会保障の法制度			
	3	現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向			
	4	医療保障 医療保障制度の沿革、構造と体系 健康保険と国民健康保険 高齢者医療制度、保険診療のしくみ 公費負担医療 国民医療費			
	5	介護保障 介護保険制度の背景と介護保険の歴史 介護保険制度の概要、課題と展望			
	6	所得保障 所得保障制度のしくみ 年金保険制度 社会手当 労働保険制度			
	7	公的扶助 貧困・低所得問題と公的扶助制度 生活保護制度のしくみ 低所得者対策 近年の動向			
	8	終了試験			
履修条件					
評価方法	講義が中心なので、出席状況を重視する。 定期の試験、出席状況等による総合評価を行う。				
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 社会保障・社会福祉 医学書院				
参考書					
備考					

看護学科

講義要綱

科目	医療関係法律論	単位	1	開講時期	2年後期
授業形態	講義	時間数	15	必修区分	必修
担当者	国京 則幸				
授業目的	看護という職業に携わる者として必要な法の基礎を学ぶ。				
到達目標	医療を提供する枠組みの全体像およびそれぞれの法のしくみと関連性について理解する。				
授業概要	看護という職業との関係を理解するために、まずは、法の枠組み・体系について理解し、法的な考え方の基礎を学ぶ。さらに、医療を提供する枠組みに関しては、医療提供のための制度と医療を保障するための制度全般について学び、あわせて、それら諸制度の関連性・看護の位置付けについても学ぶ。また、外国の制度として、イギリスの医療制度・医療保障制度についても紹介したい。				
授業方法					
授業展開	回数	内容			準備等
	1	1 看護と法・法律論概論、看護師の法的位置づけ（資格）			
	2	2 看護師の法的位置づけ（業務・総論）、看護師の業務と責任（責任体系）			
	3	3 看護師の業務と責任（民事責任）			
	4	4 看護師の業務と責任（刑事責任）			
	5	5 医療の提供と看護（医療制度）			
	6	6 医療の提供と看護（医療保障制度）			
	7	7 関連法規			
8	8 試験				
履修条件	一方通行の講義ではつまらないので、できるだけやりとりをしながら理解を深めたいと考えています。したがって、講義に際しては、テキストの該当箇所はあらかじめ通読しておいてください。				
評価方法	筆記試験で評価する				
テキスト	系統看護学講座 専門基礎 看護関係法令 医学書院				
参考書					
備考					